

私たちが今できること ～大災害に備えて～

今年1月1日16時10分頃、石川県能登半島で最大震度7を観測する地震が発生しました。私たちが暮らす彦根市でも同様に、大きな地震が発生する可能性は大いにあります。その時どのように行動すべきか、想像することができますか。また、日頃から地震などの災害への備

えはできていますか。行政による備えや支援である公助には限界がありますが、自分や家族の命を守る自助や地域で助け合う共助により、互いに助け合うことで、被害を軽減し、復興が早く進みます。この機会に今できることを考えてみましょう。
問 危機管理課 ☎ 30-6150 ☎ 23-1777

地震が起きたとき、あなたはどうする？

市内には、「^{すずか}鈴鹿西縁断層帯」と呼ばれる断層帯があります。この断層帯のずれによって彦根市では、**マグニチュード7.6、最大震度7**の地震が発生する想定がされています。

鈴鹿西縁断層帯地震による彦根での被害想定(震度分布図)



被害想定(最大数)

人的被害	死者 403 人 負傷者 2,723 人
家屋被害	全壊 6,321 棟 半壊 11,565 棟 焼失 1,391 棟
避難者数	1日後 19,589 人 7日後 37,536 人 帰宅困難者 11,812 人 (ピーク時)
生活への影響	断水世帯の割合 91% (直後) 停電世帯の割合 96% (直後)

能登半島地震では

能登半島地震では、マグニチュード7.6、震度7の揺れを観測しました。石川県内では3月12日時点で、**死者241人・負傷者1,188人の人的被害、全壊7,716棟・半壊10,609棟の家屋被害**といった甚大な被害が確認されています。ライフラインについても、電気やガスは概ね復旧しつつありますが、水道は現在も約15,950戸で断水が続いています(3月12日内閣府発表)。鈴鹿西縁断層帯地震でも同様に震度7の揺れが観測されると想定されており、**彦根市でも同等の被害が予想されます。**



彦根市から被災地へ



地震が発生した1月1日から順次、被災地からの要望に応じて、彦根市から石川県へ職員を派遣しています。これまで50人以上を被災地支援として派遣し、滋賀県チームとして以下のような活動をしています。

- ▶ 緊急消防援助隊滋賀県大隊として救助
 - ▶ 滋賀県DMAT(災害派遣医療チーム)や災害支援ナースとして医療支援
 - ▶ 被災した家屋の応急危険度判定
 - ▶ 下水管の被害調査・給水管の復旧
 - ▶ 避難所運営 など
- また、物的な支援としては、備蓄している飲料水(500mlペットボトル7,200本)を能登町にお送りしました。今後も被災地のニーズに寄り添い、引き続き支援を行っていく予定です。

緊急消防援助隊滋賀県大隊

彦根市消防本部消防署本署 消防係長 ^{かんばやし けんご}上林 謙剛

私の任務は珠洲市での救助活動でした。現地では携帯電話が使えないうえに建物の倒壊や地盤隆起による道路の寸断も多く、極限の情報不足状態でした。倒壊によって足に大けがを負いながらも長時間耐えてくださり、救助できた命もある一方、救助犬が反応を示しながらも、倒壊家屋から助け出せなかった方もおられました。

大きな地震は余震の後に来ることがあります。今回の地震でも余震で屋外に避難したものの、家に戻って本震の被害に遭われたケースがありました。**正しい知識を身に着け、普段から備えを意識することで、被害を少なくできると思います。**



滋賀県DMAT

彦根市立病院 診療局長兼消化器外科部長 医師 ^{やすだ せいいち}安田 誠一

被災地では、もちろん現地の職員も被災しており、正月で帰省している人も多かったことから、医師の数が不足していました。被災地での活動は、このような理解も必要だと感じました。何事においても準備は必要です。大災害が起こったときを想定し、日頃から訓練しておくことが必要でしょう。また、一人ひとりが常日頃からしっかりと備えておくことが大切です。今回のような災害は他人事ではなく、**いつか自分たちにも起こることだと真剣に考える必要があります。**